

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
会議名 (審議会等名)	令和3年度 嬉野市第1回食育推進会議		
開催日時	令和3年6月1日(火) 14:00～15:20		
開催場所	嬉野市中央公民館 大集会室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委 員	森サチ子委員、江口智子委員、古賀恭子委員 川原みさ子委員、峰松美佐子委員、松尾明美委員 浦川良子委員、湊野理香委員、溝口紘子委員 尾形有紀委員、友清雅子委員	
	事務局	市長、市民福祉部長、健康づくり課長 健康づくり課統括保健師、健康づくり課副課長 健康づくり課主任	
	その他		
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議レジメ ・ 資料 (別添1～4) ・ 嬉野市「子どもが作る弁当の日」実施に関する調査結果 		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課
審議経過	<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付 異動・役員改選等で今年度委員を交代される方4名のうち欠席者を除く3名へ交付</p> <p>3. 市長挨拶</p> <p>4. 嬉野市食育推進会議会長挨拶 この会議の委員が所属されている団体、みゆきの里（佐賀県食育賞）と嬉野市食生活改善推進協議会（農林水産省第5回食育活動表彰）が受賞された。</p> <p>5. 協議事項</p> <p>(1) 令和2年度嬉野市食育推進事業報告について</p> <p>1) 食育推進事業について 【事務局】P1・2について説明 令和2年度は児童生徒の食育教室の実施が回数で1.5倍、人数で2倍に増加した。乳幼児健診での食育指導で、朝食の摂取率は高いが、朝食のバランスについてたずねると、バランスの良い朝食を食べているという回答は41%しかなかった。今後のかかわりの必要性を感じた。</p> <p>2) 食育広報及び食育推進に関する調査について 【事務局】P3・4について説明</p> <p>3) 食育賞について 【事務局】別添1「食育ネットワークさが情報誌～生きる力～」で説明 みゆきの里加工グループが第14回佐賀県食育賞を受賞</p> <p>4) 農林水産省 第5回食育活動表彰について 【事務局】別添2「第5回食育活動表彰事例集」で説明 嬉野市食生活改善推進協議会が受賞。佐賀県から初めての受賞となる。</p> <p>(2) 令和3年度嬉野市食育推進事業計画について</p> <p>1) 食育推進事業計画について 【事務局】P5について説明 食生活改善推進協議会が行う活動で、対話や訪問及び集会での普及活動については昨年度の実績をふまえた計画としている。</p> <p>2) 食育広報及び食育推進に関する調査について 【事務局】P6・7、別添3「市報6月号」で説明</p> <p>(3) 嬉野市の食育の現状と課題について</p> <p>1) 現状について（事前アンケートを参考に）</p> <p>2) 課題について</p>	

審議経過

【事務局】事前アンケートを参考に御討議いただきたい。

【委員】嬉野市健康総合計画に目を通したが、その中で子どもの健康状態がとても心配になった。子どもに排便の習慣がなかった。また、バランスの良い食事とはどういうものかということも私たちも含めて保護者も理解できているのか、そのあたりを推進していかなければならないと感じた。色々な食育に関する教室が開催されているが、参加者はごく少数。参加してほしいと思う人は参加していないのではないかな。もっとかかわっていかなくてはいけないと感じた。

【委員】昔はラジオ体操に行くために早く起きるとか、祖父母と一緒に早く起きて朝食を食べるとか、そうすることでリズムができていたが、今は少しでも長く寝たいというのがあって、ますます朝食を食べないということがあるのではないかな。簡単で栄養が摂れる朝ごはんのメニューをたくさん広報してもらっているが、実際、活用している人がどれくらいいるのか。野菜不足には市販のものを買うということもあると思うが、やはり、全部とは言わないが野菜などの食べ物を食べることで食物繊維がとれて排便にもつながるのではないかな。

【委員】保健福祉事務所では直接住民へかかわることが少なく後方支援が多い。広く浅くというかわりになる。今後も子どもや職域への支援をしていきたいと考えている。提案だが、幼児や学童に対しては『すべての』ということ 키워ワードにしてはどうか。「弁当の日」はすべての学校で実施できているということが分かったが、例えばすべての保育所でお皿の配置が書いてある同じランチョンマットを使おうとか、『すべての保育所で』とか『すべての小学校で』など、そのような取り組みはどうかと考えた。

【委員】次に課題とあるが、課題とはみんなが考えて取り組んでいくものだと思う。すべての世代に食育は大切だと思うが、特に子どもへの食育は重要だと思う。祖父母は母親に対して口出しできない部分がある。自分の子どもは自分で育てるという考えで育ててほしい。食は一生継続くもので、とても大事なことだと思う。

【委員】お母さん達はとにかく忙しい。そのお母さん達に、これ以上要求するとパンクしてしまうのではないかなという状況だと思う。どんなことができるのかと考えると、例えばコンビニはダメだということではなく、コンビニにあるものを利用したバランスのとれる食事の選び方を教える機会があってもいいのかなと思う。食育に携わる人は、きちんと一から調理することを教えてしまいがちだが、それだけでは忙しいお母さん達には難しい。卒業後、自分で食事の準備をすることになる高校生への食育授業でもコンビニや外食の活用方法を教えていきたい。今までの一からきちんと調理するという指導方法では限界があるのではないかな。

【委員】先程の意見に同感。基本は正しい食べ方をお母さん達が知ることだと思う。ごはんのみそ汁と野菜と卵と、それぞれきちんと揃えようと言うのではなく、正しい食べ方が将来の健康につながるということを伝えることが大切で、子ども達やお母さん達が納得いく指導ができればいい。子どもクッキングを月に1回開催しているが、朝食にみそ汁を食べてきたと言う子どもは12～13人中2～3人しかいない。他の食育教室でも同じような状況。そこで提案として、「朝、みそ汁を食べよう」という運

審議経過

動に取り組んではどうかと思う。

【委員】小中学生をたくさん見ているが子ども達で大きく差がある。食べない子はほとんど食べない。家で何を食べているのかと思うほど偏食の子どももいるので対応に困る。お母さん達が忙しいことが影響しているのか、早くできて早く食べられる料理に偏ってきているのか、バランスよく食べるということに重きが置かれなくなってきたのではないかと感じる。困難を感じることはあるが、根気強くバランスの良い食事について子ども達にも保護者にも伝えていくことを今後も続けていこうと思う。

【委員】子ども達は野菜嫌い。バランスよく食べているかと言われるとそうではないと感じる。保護者も家庭で食べないから学校で食べさせてくださいと言われる。嫌いでも少しずつ食べさせるようにしている。食事のマナーも悪い。保護者にも声掛けをするが家庭の様子が見えないので、学校だけではなく地域の人や保護者とも連携して進めていきたいと思う。それぞれの立場で頑張っていくよりも連携していくことができたらと感じた。

【委員】中高生は部活のためとか試験のためとか動機付けになることで意識が変わってくるのではないと思う。「弁当の日」では学校から一緒にお弁当を作るような指導があるが、例えば緑・黄・赤の食べ物を含むお弁当を作りましょうというようなバランスのとれた弁当作りの指導があれば分かりやすいのではないかと。

【委員】「弁当の日」の取り組みは、事前に授業で栄養バランスについて学習があるのか。それとも、弁当を自分で作って来るよう伝えるだけなのか。

【委員】嬉野給食センターでは弁当作りのポイントを記載したプリントを配っている。また、ほとんどの学校で学年に応じた弁当作りの指導を授業で実施されている。

【事務局】みんなで一緒に取り組むことができるような内容を検討したらどうかという意見が多かったように感じる。「弁当の日」についても、この会議の提案で最初は反対の意見が多かったが、全校で実施するようになり、ここまで浸透した。このような好事例がでてくる会議でもあるので、是非、今年度も皆さんの意見で同じ方向を向いて取り組んでいける内容が検討できたらと思っている。

【委員】先程の意見にもあったが、お母さん達はとにかく忙しいので、朝からみそ汁とか用意するのは大変だとするならば、例えば、前夜に多めに作ったものを利用することもできるのではないかと。おかずをバランスよくというのは理想的だが、そうではなくコンビニのものや出来合いのものを買ってきて、ひと工夫してバランスが良くなるようにするとか、そのような思いやりが子どもにも伝わるのではないかと。弁当についても、きちんと作らないといけないとか堅苦しく思わないで、おにぎりを自分で握るといっただけでもいいのではないかと。それから徐々に栄養などの知識も身に付けていけばいいのではないかと。お母さん達にも少しずつ浸透していけばいいのではないかと。

【委員】今、意見にでた概念的なことを実行する方法として、例えばみそ汁を簡単に作る方法をお知らせするとか、コンビニの利用で考えると中食プラス1の仕方とか広報誌等を使って知らせることも考えられる。コンビニのもので主食主菜副菜をそろえてもバランスがとれるという記事を掲載するなど。

審議経過

【事務局】様々な内容で広報はしているが、広報誌の活用では限界があると感じている。それぞれの立場から同じ方向性で活動していけたらと思っている。みゆきの里では、みそ作りをされているが、その中で「みそ玉」作りもされているので、そのあたりをうかがいたい。

【委員】私たちは、直接、学校や子どもに教えるということではなく、農産物を生産し提供するという立場である。吉田保育園で実施されただしの飲み比べという取り組みはとてもいいと思った。私たちもみそにだしや乾物などを混ぜて「みそ玉」を作っている。忙しいときはそれをインスタントのように溶かして飲むことができるということを学校や保育園に行ったときには教えている。

【事務局】例えば、保育園や学校等の食育教室で子ども達が「みそ玉」を作って、それを家庭に持ち帰って、朝からみそ汁を食べようという活動が広がればいいのではないかと感じている。

【委員】だしの飲み比べをしたきっかけは、子ども達の給食のみそ汁はなんでおいしいの？という声だった。その取り組みをした後、子ども達が園でしたことを家庭で話し、他のだしについても YouTube で見てみたという声が聞かれた。やはり、ネットで調べたという声が多かった。市報は読んでみるとおもしろかったり色んなことをしているということが分かったりするが、若い人は見ていないのではないかと思う。一番見るところは自分や知り合いの子どもが載っている写真ではないか。例えば、「みそ玉」作りを園で実施した記事を市報に載せてもらったら、そこから他の情報も見るといことも考えられる。今は何でも SNS とかインスタグラム等で調べている保護者が多いので、そういう媒体で、魅力的な楽しい朝食を魅力的なおとなが紹介したら、きっかけ作りになるのではないかと感じる。

【事務局】「みそ玉」作りに関しては、みゆきの里で御指導をされているので、作り方を一度教えてもらおうとよいのではないかと考えている。調整をして皆さんにお知らせする。また、団体から直接依頼されるのもいいのではないか。その他、本日、委員から配布があったチラシにも「みそ玉」作りの参加募集が掲載されている。

【委員】白石町で開催しているイベントで「みそ玉」作りのワークショップがある。

【事務局】今回の内容をふまえた取り組みを実施していただきたいと思っている。

6. その他

(1) 嬉野市「子どもが作る弁当の日」取組みについて

【事務局】配布資料『嬉野市「子どもが作る弁当の日」実施に関する調査結果』で報告。どの学校もそれぞれ工夫を凝らし実施されている。令和元年度は、年 2 回、全校で取り組まれていたが、令和 2 年度についてはコロナの影響で小学校が 6 校、中学校が 3 校の実施にとどまった。また、年に 2 回実施したのは吉田中学校のみだった。今後も実施が難しい場合もあるかも知れないが、学校側も子ども達に良い効果がでているという認識があるので、状況を見ながら推進していきたい。

(2) 嬉野市健康マイレージ事業について

【事務局】別添 4 について説明。今年度で 3 年目の取組み。皆さんの健康づくり

審議経過	<p>を応援するという事業で、健診受診や健康への取り組みにポイントを付与し、決まったポイントを獲得すると商品券と交換できるという内容。昨年度は 60 歳代、70 歳代の方の取り組みが多く、また、女性が 6 割と多かった。申請者は 1 年目が 344 人、2 年目は 422 人と増加している。今年度から商品券の種類が増えた。市民の取り組みについて御協力をお願いしたい。</p> <p>(3) 嬉野市食育推進会議委員名簿</p> <p>7. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	---